



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四一六号）

清明 せいめい

四月四日

愛子さま、伊勢神宮参拝

春の天気はこれほどに不安定なものでしょうか。三月二十六日、天皇家のご長女・愛子内親王ないしんのうが伊勢神宮を参拝されました。私は近鉄特急で到着された鳥羽駅、そして外宮、内宮を同行取材しました。お昼過ぎ、伊勢志摩ライナーで鳥羽駅にご到着。降りしきる雨の中、出迎えの関係者と笑顔であいさつを交わし、駅前に詰めかけた人々に手を振って応えていらっしゃいました。そして、午後三時過ぎ、白色のロングドレスに着替えられた愛子さまは、外宮の参道を歩いて参拝されました。到着時のオフホワイトのスーツの際と同じ、一連のパールのネックレス、イヤリング、ブローチを付けていらっしゃいます。今回は大学卒業という節目の参拝で、前回、ご両親とともに来られてから十年ぶり。私はその際にも同行取材していますが、お一人で参拝するお姿は気品にあふれていました。

続いて、内宮参拝の時には雨も上がり、時折青空も見えるほど。ただ強風が吹き、体感気温が低くなる中、愛子さまの凛としたお姿はお変わりなく、参道の人々に会釈しながら、参拝をされました。内宮正宮しょうぐうの内玉垣うちたまがき南御門前に玉串を捧げられた時は、日の光も差して、まさしく神々しいばかりであったようです。

一日同行取材は雨に降られ、強風に吹かれ、夕刻には手も悴むほど身体が冷えましたが、愛子さまの成長されたお姿を拝見して、感動しました。また、鳥羽駅では駅員がホームの水たまりをモップで吸い取ったり、電車のドア上部をタオルで拭いたりして、愛子さまをお迎えする準備を欠かさない姿勢にも感銘を受けました。

内宮神苑の早咲きの桜はすでに見頃。愛子さまの目にとまったことでしょうか。愛子さまに沸いた伊勢の春です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第四回 三重のもめん展

三重県は古くから木綿織物業が盛んでした。

やわらかく、どこかぬくもりが感じられる「伊勢もめん」、縞模様が特徴の松阪地域で生産される「松阪もめん」、熊野古道沿いで明治時代から紡がれてきた「市木木綿」。

県内3地域の木綿織物の製品を揃えています。

三重の木綿の魅力を感じてください。

日 時／4月11日(木)～4月21日(日) 10:00～17:00

場 所／赤福 本店別店舗

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 日本の伝統芸能 漆 新たな世界

自分の手で一からものづくりをしたい一心でスポーツメーカーを退職した大内先生。美術の勉強をする中で日本の伝統工芸である漆の魅力に惹かれ、香川県漆芸研究所で鉤醬きんま・存清ぞんせい・彫漆ちょうしゅうの三技法を学び三重県に移住、神職が履く浅沓の製造技術も習得されました。ウルシの木の樹液は、縄文時代から塗料や接着剤に使用され、日本の生活には欠かせないものだと思信した大内先生。今回は漆の魅力を伝えるため、様々な素材を取り入れた新しい見せ方へのこだわりや作品を通してあなたを漆の世界へと誘います。

日 時／4月11日(木) 13:30～15:00

講 師／大内 麻紗子 (漆作家)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

はな
花

いかだ
筏

川面に舞った桜が、岸辺に着かず離れず筏のように浮かび、流れにまかせて漂い続ける、古人も詠んだその風景。粒餠を包んだ求肥に桜の姿をとどめて、花のなごりに思いをこめました。

こちょう
胡蝶の舞

神宮では毎年四月、神恩に感謝を捧げ、国民の平安を祈る、春の神楽祭が行われます。古式ゆかしく演じられる「胡蝶」の舞の装束を白あんを包んだ羊羹で表現しました。

じんぐう
神宮つつじ

神宮にもつつじが咲く頃となりました。山芋あんのきんとんで粒餠を包み、木々の緑と赤いつつじが見せる鮮やかな色彩を表現しました。